

園舎建替え工事
特記仕様書

Vent（ヴァン）計画設計室
山梨県木造住宅協会

園舎建替え工事 工事仕様書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所

2. 建築主

3. 敷地概要

敷地面積	1013.16㎡
都市計画区域 区域区分	指定なし
防火区域	指定なし
用途地域	指定なし
指定建ぺい率	70%
指定容積率	200%
高さ制限	無し
高度地区	無し
外壁の保護	無し
風致地区	指定なし
その他の指定	無し
道路	前面道路 5.97m 接道長さ 11.850m

4. 工事種目

1. 建物	1) 保育園舎
木造 2階建て	新築 1棟

5. 計画概要

建築基準法上の用途	建築面積	493.42 ㎡	
床面積	490.21 ㎡	1階	430.60 ㎡
2階	59.61 ㎡	敷地面積	9.350m
軒高	6.450m	建ぺい率	48.20%
容積率	48.38%	分約敷	安心こども基金
予定工期	平成23年12月より平成24年7月末		

この工事は昨年10月1日施行された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に則った、公共建築物等にあたる保育所の園舎建替え工事である。

低層公共建築物の積極的な木造化を図るという、この法律の意図により、地域材を積極的に活用することで、林業の再生や森林の適正な整備、地球温暖化の防止等に貢献することはもちろん、地域全体の活性化と園児の安全で健やかな園生活に寄与することを基本理念としている。

開園以来、園児一人ひとりを大切に、温かく・心豊かな保育を実践している。

旧園舎は小さな軽量鉄骨の園舎から始まり、ログハウスを増築以後、園児の増加に伴い増築・改築を繰り返し、現在に至っている。

本工事の園舎における保育概要は下記の通りである

保育園児定員 80名（最大100名）

保育対象 0歳児から5歳児（就学前）まで

職員 保母18名 給食用スタッフ2名

保育時間 通常 月曜日～ 金曜日 午前7時30分～午後6時30分

土曜日 午前8時～午後5時（給食あり）

延長 月曜日～ 金曜日 午後6時30分～午後7時

木造化に当たり、園で決定した保育目標は「『すこやかな体・しやかな心・育ち合うつながり』をそくぐむ」というものである

特に こどもたちが、安心して過ごせるくつろいだ雰囲気の中での保育を心がけており、木のぬくもりの中で園児が生活できることを、園長先生以下、園関係者の強い希望のもとに、地域材を使用した木造2階建ての園舎を計画するに至った。

地域材の調達・流通・品質管理については「山梨県木造住宅協会／材木流通・品質管理計画書」に則り、使用木材は下記の通りとする

- ① 構造材：県産木材
- ② 下地材：国産材
- ③ 造作材・内装材：国産材

Ⅱ 建築工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「木造建築工事標準仕様書（平成22年版）」（以下「木造標準仕」という。）による。
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を用いる。なお、電気設備工事の工事仕様書は（ ）図、機械設備工事の工事仕様書は（ ）図による。
- (3) 請負者は完了検査（中間検査を含む。）の検査には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。

2. 特記仕様

- (1) 項目は、○印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
- (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、木造標準仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (4) 特記事項に記載の【 】は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (5) 木造標準仕、標仕で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令の改正等により（条例を含む）抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する

章 項目	特 記 事 項						
1 一般共通事項	<p>○ 建築工事標準詳細図 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成22年版）</p> <p>○ 工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編 建設大臣官房官庁営繕部監修</p> <p>・ 建築物解体工事共通仕様書・同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成18年版）（1.1.3）</p> <p>○ 届出手続等</p> <p>・ 電気保安技術者</p> <p>・ 適用する（1.3.3）</p> <p>○ 施工条件</p> <p>次の事項以外は現場説明書による。</p> <p>・ 工事用車両の駐車場所 ※図示</p> <p>・ 資機材置場 ※図示</p> <p>・ 建設発生土仮置場 ※図示</p> <p>・ 工事期間・時間 ※図示</p> <p>○ 工事の一時中止</p> <p>基本計画書の作成</p> <p>1) 契約書の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。</p> <p>なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。</p> <p>2) 工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。</p> <p>○ 発生材の処理等</p> <p>本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。</p> <p>総合施工計画書作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該システムにデータ入力を行う。</p> <p>また、同システムにより、工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を、工事完了時に同計画書の実施報告書（書式は同一）を作成し、監督職員に提出する。</p> <p>・ 特定建設資材の分別解体等及び再資源化等（1.3.8）</p> <p>本工事は、特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日 法第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。</p> <p>工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。</p> <p>また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督職員に報告する。</p> <p>○ 環境への配慮</p> <p>化学物質を放散させる建築材料等（1.4.1）</p> <p>本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1) から5) を満たすものとする。</p> <p>1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上り塗材及び壁紙はホルムアルデヒドを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>2) 保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド又はスチレンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>5) 1)、3) 及び4) の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ホルムアルデヒド放散量</th><th>該当する材料</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>規制対象外</td><td> <p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 次の表示のある JAS 適合品</p> <p>a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用</p> <p>b. 接着剤等不使用</p> <p>c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用</p> <p>d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p> <p>e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用</p> <p>f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p> </td></tr> <tr> <td>第三種</td><td> <p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 旧 JIS の Eo 品</p> <p>④ 旧 JAS の Fco 品</p> </td></tr> </tbody> </table>	ホルムアルデヒド放散量	該当する材料	規制対象外	<p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 次の表示のある JAS 適合品</p> <p>a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用</p> <p>b. 接着剤等不使用</p> <p>c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用</p> <p>d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p> <p>e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用</p> <p>f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p>	第三種	<p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 旧 JIS の Eo 品</p> <p>④ 旧 JAS の Fco 品</p>
ホルムアルデヒド放散量	該当する材料						
規制対象外	<p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 次の表示のある JAS 適合品</p> <p>a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用</p> <p>b. 接着剤等不使用</p> <p>c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用</p> <p>d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p> <p>e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用</p> <p>f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用</p>						
第三種	<p>① JIS 及び JAS の F☆☆☆☆ 品</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品</p> <p>③ 旧 JIS の Eo 品</p> <p>④ 旧 JAS の Fco 品</p>						

特記仕様書（その1） S:1/150

Vent計画設計室

Vent(ヴァン)計画設計室

1級建築士事務所 山梨県知事登録第 号
大臣登録 第 号

山梨県

承認

図尺 (2)

1/150

工事名

園舎建替え工事

図面番号

図面名称

特記仕様書（その1）

日付

2012

A 1

3 土・地盤・基礎工事	○ 鉄筋の継手	継手方法等 部 位 柱、梁の主筋 耐力壁の鉄筋 その他の鉄筋（基礎スラブ） 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ○木造構造標準図(1) 3.3による ・図示による（ ） 継手位置図 ・木造構造標準図4.1による ・図示による（ ） ・ ○ 鉄筋の定着の方法及び長さ 鉄筋の定着方法 ○木造構造標準図(1) 4.1、4.2による ・図示による（ ） ・ 鉄筋の定着の長さ ・木造構造標準図(1) 3.3による ・図示による（ ） ○ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む） 最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う） ○木造構造標準図(1) 3.4による ・図示による（ ） ・ 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ○無し ・有り 適用箇所（ ） 最小かぶり厚さ ・鉄筋径の1.5倍以上 ・ 軽量コンクリートで土に接する部分 ○無し ・有り 適用箇所（ ） ・木造構造関係共通事項（配筋標準図）表4.1に加える厚さ（ ）mm ・ 耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等） ○無し ・有り 適用箇所（ ） ・木造構造関係共通事項（配筋標準図）表4.1に加える厚さ（ ）mm ・ 鉄筋相互のあき（特殊な鉄筋を除く） ○木造構造標準図(1) 3.5による ・図示による（ ） ・ ・ 特殊な鉄筋継手 使用箇所 ※図示による（ ） ・ 性能（H12建告第1463号に適合するもの） ・A級 機械式継手の種類（ ） 鉄筋相互のあき ・図示による（ ） ・標準仕様書 5.3.5(d)による 品質の確認方法 ・図示による（ ） 不良となった継手の修正方法等 ・図示による（ ） ○ 各部配筋 各部配筋 ○木造構造標準図(1)による ・図示による（ ） ・	【5.3.4】 【5.5.2】 <
----------------	---------	---	--

特記仕様書(その3) S:1/150

秘 則

本工事は構造材には県産材を、その他造作材・内装材には近県地域材を使用することを原則とする木造工事である。
木材の調達・流通・品質管理については「山梨県木造住宅協会／材木流通・品質管理計画書」（以下「管理計画書」という）に則り、特記仕様書に
記載なき事項については当該「管理計画書」による
在来軸組み工法で本工事では柱や梁が現しとなるため材の養生には十分注意し、完成後の狂いや収縮、割れを最低限におさえる。
材の乾燥には特に十分な注意を払うこと
特記仕様並びに木拾い書に記載されていない事項は、「日本建築学会建築工事標準仕様書JASS11木工事図解」を参照の上、工事監理者と協議すること。

乾燥について 県産材・地域材を使用することが基本となるこの工事において、問題となるのが製材の乾燥と仕上げである。
基本的に構造材の含水率は25%、下地材20%・15%・内外装材15%・造作材15%とする
山梨現状では、本工事の必要量を入札からの期間で用意するためには、高温乾燥に頼らざるを得ない。
また構造材の含水率もJAS仕様の含水率20%と指定するのは必要量を用意するのは難しいため、暫定的に乾燥の度合いを、含水率25%と指定している。しかしこの5%が全く問題の無いものとはいえず、乾燥が甘くなることで予想される材料の収縮による不具合を避けるよう、断面寸法に余裕を持たせる等の配慮が必要になる。加えて、ボルト類は、建て方終了後および仕上げ工程に入る前に増す締めを必ず施すこととする
また、乾燥方法が高温乾燥であることから、材料検査時は芯部分の割れ等には十分注意することとする
これは、下地材・造作材についても同様であり、含水率が高いことによる材の動きが問題となる箇所については、材料を置換し、含水率の低い材（15%を基準とする）を使用する

防腐・防蟻処理について

防腐処理を行うか否かは特記による。処理を実施する場合は下記の品質と範囲を守ること
・薬剤の品質 : ※(社)日本しろあり対策協会、(社)日本木材保存協会認定の防腐・防蟻材を塗布
・施工範囲 : GLより1Mまでの、土台、大引き、根太、柱、壁下地材すべてにわたって適用する。(但し、室内の 見掛け材面を除く)

養生について

工事中に、汚染や損傷などの恐れのある場合は、とのこ張り、紙貼り、板当て及び、その他適切な方法により養生する。
建て方から屋根葺きまでの工事中は、特に降雨に注意すること。その後も雨がかりとならぬよう養生を行う。”

①木材部位別材料（構造用集成材）

規格	概要	使用部位	寸法			材料の種類	樹種		化粧薄板厚	強度等級	材面の品質	含水率	接着性能	曲げ特性	防腐・防蟻処理	その他
			巾	成	長さ		心材	化粧								
集成材の日本森林規格の構造用の集成材の規格 (JAS)	柱 柱 ○ 梁・桁 ○ 梁・桁 ○ 梁・桁	柱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			120	360	図示	集成材	から松	—	—	E105-F300	2種	(15%以下)	—	—	—	—
			120	450	図示	集成材	から松	—	—	E105-F300	2種	(15%以下)	—	—	—	—
			120	450	図示	集成材	から松	—	—	E105-F300	2種	(15%以下)	—	—	—	—

②木造部位別材料（構造材）

種類	規格	概要	使用部位	寸法			材料の種類	樹種			ヤング係数	化粧等級	目視に關わる事項	含水率	仕上げ	防腐・防蟻処理	その他
				巾	成	長さ		心材	化粧	その他							
構造用製材	柱材: 基本的に2倍材とし、4寸材柱は末口180から220mm、5寸柱は220～250mmの原木丸太を通寸とする。 原木サイズが末口200以上であるか、又はヤング係数70以上が確認できたものについては樹齢40年生の間伐材も使用可とする 「杉」の柱、梁などの構造材: 原則として樹齢60年以上の材とし、出来る限り目の細い材を使用する。使用する際は使用部位を製材者に伝え、適材を使用するように心がける。 構造材全般: 断面を表示する寸法(設計寸法)は、仕上がり寸法を示す。そのため、原木の製材に当たっては、乾燥によるややせや曲がり等を考慮し適切な分増しを行い、修正後次の表の仕上がり時に設計寸法を確保できるようにすること	○ 主木	120	120	図示	製材	桧			計測せず	特1等	目視に關わる事項	25%以下	自動かんな削り仕上げ(モルダール)以上とする	樹種により処理せず (5.1.7) (a) (1)		
		大引き	120	100		製材	桧										
		柱	90	90		製材	桧										
		柱	120	120		製材	桧		通し柱								
		柱	120	120		製材	桧		管柱								
		柱	120	120		製材	桧	○									
		柱	120	150		製材	桧	○									
		柱	150	150		製材	桧	○									
		柱(丸太)	図示	図示		製材	桧		丸太								
		柱(特殊)	120	120		製材	杉		特殊								
		梁(杉)	120	120	3000	製材	杉										
		梁(杉)	120	150	3000	製材	杉										
		梁(杉)	120	180	6000	製材	杉										
		梁(杉)	120	210	3000	製材	杉										
		梁(杉)	120	240	3000	製材	杉										
		梁(杉)	120	270	5000	製材	杉										
		梁(杉)	120	330	7000	製材	杉										
		梁(杉)	120	360	4000	製材	杉										
		梁(杉)	120	150	5000	製材	杉										
		梁(杉)	120	180	5000	製材	杉										
		梁(杉)	120	210	3000	製材	杉										
		梁(杉)	120	240	5000	製材	杉										
		梁(杉)	120	270	6000	製材	杉										
		梁(杉)	120	330	6000	製材	杉										
		梁(杉)	120	120	3000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	150	4000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	180	7000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	150	3000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	180	7000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	210	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	150	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	180	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	210	4000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	270	4000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	150	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	180	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	150	5000	製材	杉	○									
		梁(杉)	150	180	3000	製材	杉	○									
		梁(杉)	120	120	図示	製材	杉										
		梁(杉)	120	240	図示	製材	杉										
梁(杉)	105	105	図示	製材	杉												
梁(杉)	120	図示	図示	製材	杉												
梁(杉)	—	—	—	—	—												
梁(杉)	45	90	図示	製材	桧												
梁(杉)	45	90	図示	製材	杉												
梁(杉)	90	90	図示	製材	杉												
梁(杉)	60	184	図示	製材	杉												
梁(杉)	45	60	図示	製材	桧												
梁(杉)	90	45	図示	製材	杉												
梁(杉)	30	120	図示	製材	桧												
梁(杉)	45	120	図示	製材	桧												
梁(杉)	45	90	図示	製材	杉												
梁(杉)	60	184	図示	製材	杉												
梁(杉)	30	40	図示	製材	桧												
梁(杉)	図示	図示	図示	製材	桧												
梁(杉)	—	—	—	—	—												
下地用製材		○ 1階間柱	45	120	図示	製材	桧			計測せず	特1等	目視に關わる事項	20%以下を許容範囲とするが総則における含水率の表記を考慮すること	自動かんな削り仕上げ(モルダール)以上とする	樹種・サイズ・高さにより処理せず (5.1.7) (b) (1)		
		2階間柱	45	90	図示	製材	杉										
		3階間柱	60	184	図示	製材	杉										
		4階間柱	30	120	図示	製材	桧										
梁(杉)	45	120	図示	製材	桧			15%以下を許容範囲とするが総則における含水率の表記を考慮すること									
梁(杉)	45	90	図示	製材	杉												
梁(杉)	60	184	図示	製材	杉												
梁(杉)	30	40	図示	製材	桧												
梁(杉)	図示	図示	図示	製材	桧												

○木材部位別材料（造作材）

種類	規格	使用部位	寸法			材料の種類	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐・防蟻処理	その他
			巾	成	長さ							
造作用製材		廻り縁	図示	図示	図示	製材	桧	特一等	15%以下までを許容範囲とする 木工事・鋭則における含水率の表記を考慮すること	超自動かんな仕上げ以上とし、必要に応じて240番程度でペーパー掛けをする	処理せず	
		天井見切り縁	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		腰壁見切り縁	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		窓枠	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		建具枠	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		無目枠	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		幅木	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		カーテンボックス	図示	図示	図示	製材	桧	上小節				
		け込み板	—	—	—	—	—	—				
		ささら桁	220	105	図示	製材	松	特一等				
		下見板	図示	図示	図示	製材	杉	無節				
		笠木	図示	図示	図示	製材	桧	無節				
		笠木	図示	図示	図示	製材	杉	特一等				
		建具枠	図示	図示	図示	製材	桧	特一等				
		床見切り縁	図示	図示	図示	製材	杉	特一等				
内装用製材	1階床材は園児が素足歩行することを考慮し不具合が生じる箇所については安全な状態に表面処理をする	1階 床	図示	18	図示	製材	赤松(県産材)	上小節				
		2階 床	図示	15	図示	製材	杉	上小節				
		腰壁	図示	15	図示	製材	赤松(県産材)	上小節				
		天井	図示	12	図示	製材	赤松(県産材)	上小節				

○木材部位別材料（造作用集成材）

種類	規格	使用部位	寸法			材料の種類	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐・防蟻処理	その他
			巾	成	長さ							
造作用集成材		段板	286	60	図示	集成材	松	無節	15%以下	製材造作材と同等	処理せず	
		段板（踊り場）	—	—	—	—	—	—				

○木材部位別材料（外装材料）

種類	規格	使用部位	寸法			材料の種類	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐・防蟻処理	その他
			巾 みえがかり	高さ／奥行	長さ							
外装用製材		床(デッキ)	110	40	図示	製材	杉	源平小節	15%以下までを許容範囲とする 木工事・鋭則における含水率の表記を考慮すること	超自動かんな仕上げ以上	樹種・みえがかりにより処理せず	
		床(大引き)	90	90	図示		桧	特一等		自動かんな削り仕上げ（モルダー）以上		
		デッキ手すり					杉	特一等				
		デッキ笠木	120	60	図示		杉	特一等		超自動かんな仕上げ以上		
		腰壁	101	15	図示		杉	特一等				
		腰壁見切り材	36	30	図示		杉	無地上小				
		軒天（玄関デッキ）	90	18	図示		松（吟ウッド）	特一等		自動かんな削り仕上げ（モルダー）以上		
		軒天(その他)	90	15	図示		杉	特一等				

特記仕様書（その5） S:1/100

○合板及びその他のボード類

種類	厚さ (mm)・規格等	施工箇所 (構造材・仕上げ材の別)	
○ 構造用ケナボード	厚さ (mm) ○4.5mm	構造材	取り付けに際しては木造構造標準図による。 2.8倍・4.9倍の2種の取り付け場所がある為、くぎ打ち注意
○ 構造用合板	厚さ (mm) ・5.5 ・9 ○12 ○24 ・28 接合の程度 ○特類 ・1類 等級 ・1級 ○2級 表板 ・広葉樹 ○針葉樹	構造材	○ 図示による
○ せっこうボード	厚さ (mm) ○ 12.5 ○ 9.5	下地材	○内部壁 ・ 内部天井 ・ 図示
○ 強化せっこうボード ²	厚さ (mm) ○2.5 ・15.0・		・内部壁○ 図示 (防火間仕切り)
○ 普通合板	厚さ (mm) ・5.5 ・9 ○12.5 ・15 等級 ・1級 ○2級 表板の種類 ・ 広葉樹 ○ 針葉樹 表面性能	下地材	○内部床(厨房) ・ 図示
○ けい酸カルシウム板	※ 0.8Fk ・ タイプ2(無石綿)(○6 ・ 12 ・ 16) ・ 化粧ボード (・ 6 ・)		・ 外部軒天 ・ 破風板 ・ 外部床、立上がり ○ 内部壁 (厨房) ・ 腰壁 ○ 図示
○ メラミン樹脂化粧合板	JIS K 6903による 厚さ12		○ トイレブース ・ 隔て板 ○ 図示(家具)
○ インシュレーションボード	・ T-IB ・ A-IB ・ S-IB ・ 9 ○ 12 ・ 15 ・ 18		○ 屋根下地(ダイケン・ビルボード)

・接合具表

概要	施工箇所	記号品名	種類	材質・規格	備考
○ C4柱脚	アンカーボルト			SS400 M12 フック付	ダブルナット座金付き
○ C5柱脚	アンカーボルト			SS400 M16 フック付	ダブルナット座金付き
○ C5柱-330EW梁	引金ボルト			SS400 M16	座金: 90×90×12
○ 梁仕口金物	締め付けボルト			SS400 M12	座金: φ44 t=32
○ 梁仕口金物	ドリフトピン			SS400 φ12	
○ 床構造用合板	釘			N75	
○ 野地構造用合板	釘			CN50	
○ ケナボード	釘			N50 CN30	
○ 玄関柱脚金物	製作金物			SS400	図示
○ トラス仕口金物	引き寄せボルト	Zマーク同等以上		ボルト:M12	

○接合金物表

概要	部位	接合金物名	種類	材質・認定規格	備考
○	玄関デッキ柱脚	玄関デッキ柱脚	製作金物	SS400	図示
○	筋かい	筋交い止め金具 (壁倍率2.0倍用)	既製品金物	Zマーク同等以上 (取付け金具共)	
○	構架材端部	羽子板ボルト	既製品金物		
○	火打ち	火打ち金物	既製品金物		
○	小屋束・母屋	山形プレート	既製品金物		
○	束・小屋束	山形プレート	既製品金物		
○	垂木・桁	ひねり金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	かすがい	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	L字型金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	T字型金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	山形プレート	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	羽子板ボルト	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	10kNホールダウン金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	15kNホールダウン金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	20kNホールダウン金物	既製品金物		
○	柱頭・柱脚補強金物	25kNホールダウン金物	既製品金物		

特記仕様書 (その6) S:1/100

12 建具工事	<div>・ アルミニウム製建具</div> <div>性能等級 外部に面する建具<div>・ A種 (建具符号:) ⓐ B種 (建具符号: AD/AW) ・ C種 (建具符号:)</div></div> <div>表面処理 外部に面する建具<div>※B-1種 ⓐ B-2種 (・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ⓐ ステンカラー)</div><div>屋内の建具<div>※C-1種 ⓐ C-2種 (・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ⓐ ステンカラー)</div></div></div> <div>・ 網戸等</div> <table><tr><th>種 類</th><th>材 種</th><th>線 径</th><th>網 目</th></tr><tr><td>・ 防虫網</td><td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製</td><td>0.25mm 以上</td><td>16～18 メッシュ</td></tr><tr><td>・ 防鳥網</td><td>ステンレス (SUS304) 線材</td><td>1.5mm</td><td>網目寸法 15mm</td></tr></table> <div>ステンレス鋼板の曲げ加工<div>※普通曲げ ・ 角出し曲げ</div></div> <div>・ 木製建具</div> <div>建具材の加工、組立時の含水率<div>※B種 ・</div><div>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 第三種</div><div>ⓐ フラッシュ戸 ⓐ かまち戸 かまち樹種 (ヒノキ 鏡板樹種 (ヒノキ) ・ ふすま ふすま部上張り (・鳥の子 ・ 新鳥の子又はビニル紙程度) 押入等の裏側は露花紙程度</div><div>・ 紙張り障子</div><div>・ 縁仕上 (・塗り縁) ・ 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (OF塗装))</div><div>(12.7.4)</div><div>・ 建</div><div>マスターキー ○ 製作する ・ 製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 ・ 鍵箱 ※有 ・ 無</div></div>	種 類	材 種	線 径	網 目	・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	0.25mm 以上	16～18 メッシュ	・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm	(12.2.2) (12.2.4) (表12.2.1)	○ ガラス	<div>・ 合わせガラス</div> <table><tr><th>品 種</th><th>構成種類</th><th>性 能</th></tr><tr><td>※フロート合わせガラス</td><td>※フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス</td><td>・ I 類</td></tr><tr><td>・ 網入磨き合わせガラス</td><td>・ 網入磨き、フロート板合わせガラス ・ 網入磨き、熱線吸収板合わせガラス</td><td>・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類</td></tr></table> <div>○強化ガラス</div> <table><tr><th>材料板ガラスによる種類</th><th>種 類</th><th>性 能</th></tr><tr><td>※フロートガラス</td><td>※フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス</td><td>・ I 類 ○ II 類</td></tr><tr><td>・ 型板ガラス</td><td>※型板強化ガラス</td><td></td></tr></table> <div>○複層ガラス</div> <table><tr><th>品 種</th><th>断熱性</th><th>日射熱遮へい性</th></tr><tr><td>○断熱複層ガラス</td><td>・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種</td><td>U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2</td></tr><tr><td>○断熱複層網入りガラス</td><td>・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種</td><td>U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2</td></tr><tr><td>・ 日射熱遮へい複層ガラス</td><td>・ 4 種 ・ 5 種</td><td>E 4 E 5</td></tr></table> <div>ガラスの留め材及び溝の大きさ (12.8.2～3) (表12.8.1)【9.6.1】</div> <table><tr><th>建具の種類</th><th>ガラス留め材</th><th>ガラス溝の大きさ (mm)</th></tr><tr><td>アルミニウム製</td><td>※シーリング材 (9.6.1) ・ ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・</td><td>※木造標準表12.8.1 による ・ 図示 ・</td></tr><tr><td>木製建具</td><td>※シーリング材 (9.6.1)</td><td>※木造標準表12.8.1 による</td></tr></table>	品 種	構成種類	性 能	※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ I 類	・ 網入磨き合わせガラス	・ 網入磨き、フロート板合わせガラス ・ 網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類	材料板ガラスによる種類	種 類	性 能	※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス	・ I 類 ○ II 類	・ 型板ガラス	※型板強化ガラス		品 種	断熱性	日射熱遮へい性	○断熱複層ガラス	・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種	U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2	○断熱複層網入りガラス	・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種	U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2	・ 日射熱遮へい複層ガラス	・ 4 種 ・ 5 種	E 4 E 5	建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)	アルミニウム製	※シーリング材 (9.6.1) ・ ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・	※木造標準表12.8.1 による ・ 図示 ・	木製建具	※シーリング材 (9.6.1)	※木造標準表12.8.1 による
種 類	材 種	線 径	網 目																																																				
・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	0.25mm 以上	16～18 メッシュ																																																				
・ 防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm																																																				
品 種	構成種類	性 能																																																					
※フロート合わせガラス	※フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス	・ I 類																																																					
・ 網入磨き合わせガラス	・ 網入磨き、フロート板合わせガラス ・ 網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・ II-1 類 ・ II-2 類 ・ III 類																																																					
材料板ガラスによる種類	種 類	性 能																																																					
※フロートガラス	※フロート強化ガラス ・ 熱線吸収強化ガラス	・ I 類 ○ II 類																																																					
・ 型板ガラス	※型板強化ガラス																																																						
品 種	断熱性	日射熱遮へい性																																																					
○断熱複層ガラス	・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種	U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2																																																					
○断熱複層網入りガラス	・ 1 種 ・ 2 種 ○ 3 種	U 1 U 2 ○U-3-1 ・ U-3-2																																																					
・ 日射熱遮へい複層ガラス	・ 4 種 ・ 5 種	E 4 E 5																																																					
建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ (mm)																																																					
アルミニウム製	※シーリング材 (9.6.1) ・ ガスケット ※グレイジングチャンネル形 ・	※木造標準表12.8.1 による ・ 図示 ・																																																					
木製建具	※シーリング材 (9.6.1)	※木造標準表12.8.1 による																																																					
13 塗装工事	<div>・ 材 料</div> <div>・ 塗 装</div>	屋内で使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 <div>・ 防火材料<div>※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする ・ 次の箇所を除き防火材料とする (箇所:)</div></div> <div>・ 停止め塗料塗り (13.3) 鉄鋼面錆止め塗料 EP-G以外 ※A種 鉛 ・ クロム錆止めペイント1種 EP-G ※B種 亜鉛めっき面錆止め塗料 EP-G以外 ※B種 EP-G ※C種</div> <div>・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) ・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T) ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) ○ オイルステイン塗り (OS) ○ オイルフィニッシュ塗り (OF) ・ 木材保護塗料塗り (WP) ・ マスチック塗材塗り ○ 耐水保護塗装 (ワンナップコート同等)</div> <div>(13.9) 【18.10】 (13.10) (13.11) (13.12) 【18.14】</div>																																																					

特記仕様書 (その8) S:1/100

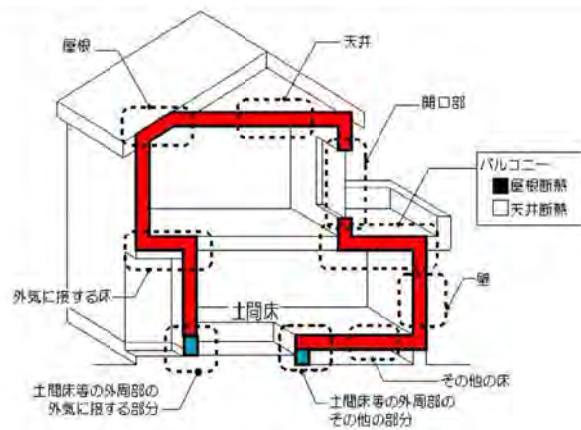
	Vent計画設計室	Vent(ヴァン)計画設計室 1級建築士事務所 山梨県知事登録 第 号 大臣登録 第 号		承認 周尺 (2) 1/100	工事名 〇〇〇〇〇〇〇 図面替え工事 図面名称 特記仕様書 (その8) 日付 2012. 〇〇	図面番号 A 8
--	-----------	--	--	-----------------------	--	-------------

特記仕様書（その9） S:1/150

等級	3	■断熱材は必要の壁等に断熱層を施工すること ■断熱材の継ぎ目の部分は気密補助材を使用すること
----	---	---

■防雨又は防蟻のための措置をした構造材がある空間においては人体に影響を及ぼす物質を室内に流入させないようにすること。
■各部取合部より外気が流入しないように、有効な措置をすることとする。

●断熱材の仕様



参考例)使用する断熱材の種類と規格(λ:熱伝導率(W/(m・K))

記号	断熱材の規格名
A-1 0.052~0.051	・吹込み用グラスウール(施工密度13K,18K) ・A級 インシュレーションボード(9mm)
A-2 0.050~0.046	・住宅用グラスウール10K ・吹込み用ロックウール25K ・羊毛断熱材 ・セルロースファイバー ・木質系ボード
B 0.045~0.041	・住宅用グラスウール16K,20K相当 ○羊毛断熱材 ・セルロースファイバー ・A種 ポリエチレンフォーム保温板1種1号、2号
C 0.040~0.035	・住宅用グラスウール24K、32K相当 ・高性能グラスウール16K、24K,32K相当 ・吹込み用グラスウール30K、35K相当 ・住宅用ロックウール(マット・フェルト・ボード) ・吹込み用セルロースファイバー25K、45K、55K相当 ○羊毛断熱材 ・A種 フェノールフォーム保温板2種1号,3種1号,3種2号
D 0.034~0.029	・A種 ビーズ法ポリスチレンフォーム保温板 特号 ・A種 押出し法ポリスチレンフォーム 2種 ・A種 フェノールフォーム保温板2種2号 ・A種 硬質ウレタンフォーム保温板1種 ・A種 ポリエチレンフォーム保温板 3種 ・建築物 断熱材用吹き付け硬質ウレタンフォームA種1、A種2 ・高性能グラスウール40K、48K相当
E 0.028~0.023	・A種 押出し法ポリスチレンフォーム保温板 3種 ・A種 硬質ウレタンフォーム保温板 2種1号、2号、3号、4号 ・B種 硬質ウレタンフォーム保温板 1種1号、2号、2種1号、2号 ○A種 フェノールフォーム保温板 2種3号
F 0.022以下	・A種 フェノールフォーム保温板 1種1号、2号

羊毛断熱材「サーモウール」施工上の注意

基本的に従来の断熱材(グラスウール・ロックウール)と施工上の違いはないが、断熱材は施工の状況によりその断熱効果が著しく左右されるため、施工上の注意をきちんと確認のうえ、施工すること
「サーモウール」は従来の断熱材のようにチクチクする事も無く、施工者にも安全である。丁寧な施工を心がける

＜壁への施工＞
タッカーでしわにならないよう、留める。
上を折り込むようにして(50~100mm間隔)
次に片側をタッカーで、逆側を少し引っ張るようにして「サーモウール」が平らに、しわにならないように(150mm間隔程度)である。手前側に施工し、石膏ボードと「サーモウール」の間に隙間ができないよう

コンセントやスイッチボックスの周りは包み込む。
コンセントやスイッチボックスの周りのヒートロスが大きいため隙間ができないよう包み込むように施工します。
注)先にボックスの裏側に小さくカットした「サーモウール」を当てて施工するとコンセント周りなどからのヒートロスが防げる。

＜隙間への施工＞
開口部周辺などの隙間へ充填します。
小さな隙間からのヒートロスが著しく断熱性能を低下させます。
「サーモウール」はどんな小さな隙間にも施工することが出来る。
小さく鋭い「サーモウール」をへらで充填する。

＜天井への施工＞
傾斜天井にはタッカーで留める。
平天井には敷きこむように隙間無く施工。
傾斜天井には壁と同様にタッカーで留めて施工。
壁と同様、平らに、しわにならないよう。
タックライトを使用する場合は必ず、断熱材使用対応型(SG・SB型)を選択すること。

＜施工完成時＞



●断熱材の仕様

○ 充填断熱工法

・ 外貼断熱工法

←いずれかにチェック

断熱材の仕様は左記のリストより選定または商品名を記入

断熱構造とする部分	断熱材の仕様	断熱区分	厚み	熱伝導率λ	R値	備考
屋根	「サーモウール」ライト	B	200mm	W/m・K	3.3	m ² ・K/W
天井				W/m・K		m ² ・K/W
壁	「サーモウール」ライト	B	110mm	W/m・K	2.3	m ² ・K/W
床	外気に接する部分			W/m・K		m ² ・K/W
	その他の部分			W/m・K		m ² ・K/W
土間床等の外周部	外気に接する部分	E	35mm	W/m・K	1.7	m ² ・K/W
	その他の部分	E	15mm	W/m・K	0.5	m ² ・K/W

●開口部の仕様

部位	メーカー	仕様	熱貫流率	気密性能	備考
玄関引き戸	建具工事	木製(通常建具)	W/m・K 以下		
木製サッシ	森の窓	木製(唐松)	4.65 W/m・K 以下	A-4	
サッシ	YKKAP	金属製	4.65 W/m・K 以下	A-4	エイビア(複層空気層12mm)
サッシ	YKKAP	金属製	4.65 W/m・K 以下	A-4	エイビア(〃) 防火サッシ
ガラス		複層(A12)			日射侵入率(北方向) 0.55以下
		複層(A12)			日射侵入率(北以外) 0.44/0.55
天窓・スカイビュー／M25	VELUX (VS手動型)	複層(A12)			ソーラーバタリーブラインド

「屋根の断熱材の厚みが開口部補完(熱貫流率4.07以下)によるトレードオフ適用」

●各部詳細 ※該当する納まりにチェック

結露防止対策	浴室廻りの断熱材施工方法 ※下図のいずれかを選択
・防湿層 ○あり ○なし 結露計算シートによる	・浴室下断熱材 ・基礎断熱
・通気層 ○あり ○なし	・浴室下断熱材 ・基礎断熱

床下の防湿の確認 ※下図のいずれかを選択	断熱材取り合い部
・床下防湿(布基礎) ・床下防湿(布基礎) ○床下防湿(ベタ基礎)	埋め込み照明器具部

断熱材取り合い部 ※下図のいずれかを選択	断熱材取り合い部
・床下防湿(布基礎) ・床下防湿(布基礎)	屋根～天井 間仕切り壁～天井

断熱材取り合い部 ※下図のいずれかを選択	断熱材取り合い部
・間仕切り壁～床 ○間仕切り壁～床	間仕切り壁～天井(プラスチック系断熱材)